

■ 個別取り組み検討シート③ 委員意見一覧

シートNo.	6
施策3	生ごみや剪定枝等の減量化・資源化
取り組み	(1) 生ごみの減量化・資源化の推進
A	事業
B	取り組み内容
C	H29.4 方針
D	進捗状況
E	効果、課題・問題点
F	R5.4 方針（案）
G	見直し（案）

委員会での意見

- 家庭内における水切り容器の普及・啓発
- 家庭ごみにおける減容化・堆肥化のインセンティブの生み出し
例：堆肥で作った野菜などのプレゼント
町で使えるポイントを還元
- 堆肥化した生ごみの活用先の検討
例：市民農園への活用や町で畑を借りて活用
- 堆肥化を活用して出来た作物品質への不安
例：残留農薬など
- 野菜の使い切りやエコな買い物の仕方を学ぶ場を設けて、意識を変えていく

委員会後にいただいた意見（追記）

生ごみの減容化・堆肥化に取り組む人を増やす方法について

●家庭の生ごみ

- ①乾燥生ごみが家庭で作られ、1kg 100円相当の野菜や果物と交換
交換された堆肥は農家さんの手によって堆肥され、畑にまかれる循環
また、交換場所は新しい村で行われることで、情報の発信にもなる
- ②拡大キャンペーンモニターの募集（家庭用、事業用）と説明会の実施
- ③屋外設置型生ごみ堆肥化容器の購入補助制度の導入
- ④現状の生ごみ処理機使用者のアンケート調査の実施と方向性の確認
- ⑤町としての大気汚染30年度までのCO2削減計画目標値の設定
 - ・5W1Hで町民を巻き込む大キャンペーンを実施
- ⑥エコ料理教室
 - ・カット、冷凍保存方法、鮮度保存などの教室の開催
 - ・こだわりとしての販売方法までつくり、スーパーやECで販売が出来たら良い
- ⑦減容の意識高揚を図るため、実際にごみ出しをしている高齢者の方々に向けて出前講座をする
 - ・内容案 「現状の問題点、処理施設や費用のこと」

●事業系の生ごみ

- ①町でキャンペーンを組み各事業体に参加してメリットのある取り組みになる運動を展開
 - ・各事業会社に事前アンケート実施・回収・整理・案として方向を決める
 - ・例えば各事業会社へ参加を呼びかけて、30社を目標とする
 - ・説明会を行い、全体計画、進行確認など3ヵ月単位で行い、修正をかける
- ②地元商店街からのエコストアの実施
最初から生ごみという切り口で募集しても難しいので、環境対策の一環としての多くの事業会社が自社として参加でき取り組める方策を考えてもらう
- ③環境配慮型商品、環境に配慮した新しい販売方法の提案（店舗とEC）

④飲食店の場合

- ・食べ残しを無くすために、あらかじめ店内やテーブルに量を指定できるお知らせを掲示（例：普通・少な目・半分盛り等）
- ・食べ残しを戸惑いなく持ち帰ることの出来る環境作り（持ち帰り容器も持参を推奨する）

シートNo.	新規
施策3	生ごみや剪定枝等の減量化・資源化
取り組み	(1) 生ごみの減量化・資源化の推進

事前にいただいた意見（追記）

- ①町としての目標数値を発表
- ②家庭と事業用に種類を分ける
- ③目標単位で枝葉の部分での検討
- ④剪定枝については、住んでいない住宅が多くなっており、草木も含めて対策が必要
- ⑤事業者から排出された剪定枝も近隣で受け入れる民間会社があれば、紹介をする
- ⑥家庭用、事業体（不動産、製造、小売り、農業等）単位での宮代モデルを作る
- ⑦木くずや刈草類は指定した場所に専用運搬車を出して、月何度か回収をする
現状では焼却処理することになり、二酸化炭素の排出や焼却灰の処理などで環境に負荷がかかるので、繊維状に破碎して肥料の原料に加工できる民間事業者に委託
- ⑧モデルケースとして関心のある方に他の自治体の成功例、実例を見ていただき、実行に移れるように推進する
- ⑨集会場の一角に家庭や街路樹の剪定で出た枝木を持ち込んでもらい、町や自治体で管理者を決めて堆肥化を出来れば、家庭菜園をしている方々の活用に繋がる